

## 平成31年度施政方針

# 多様性が輝く 共生のまちづくり

中村市長は、市議会3月定例会で31年度の施政方針を示しました。31年度のスロガンに「多様性が輝く共生のまちづくり」を掲げ、「行政と市民が信頼関係で結ばれたチーム西尾市で、難局を一つ一つ乗り越え、17万人市民が未来に夢や希望を持つ西尾市を創る」と決意を表明。新年度の主な施策を説明しました。

### 予算編成

普通交付税の合併算定替特例の減少や、社会保障関連経費の増加などが影響し、厳しい財政運営が続くと予想されます。切迫した課題である防災・減災対策や小・中学校での学習環境の改善には優先的に予算を配分しました。

31年度の市税収入は、法人市民税、固定資産税などが増え、昨年度を上回る約305億円の見込みです。一般会計約550億円と特別会計・企業会計を合わせた総予算は、約1054億円の見込みです。

### 活力と魅力あふれる 産業づくり

#### ■観光事業

全国の茶業関係者が集まるお茶の祭典「全国お茶まつり」が、15年ぶりに西尾市で開催されます。独自の企画などで祭典を盛り上げ、「西尾の抹茶」をPRします。

観光で来日する外国人をターゲットに、体験プログラムの造成や多言語ガイドの育成を支援します。海外からの個人旅行の誘致を促進します。中部国際空港株式会社、三遠南信エリアの自治体などと連携し、自動車で行かなければ味わえない魅力を発

信。観光客の増加と滞在型観光による経済効果の波及を図ります。

#### ■農業・水産業の振興

アサリ資源は、危機的状況から劇的な好転は見られないものの、稚貝の放流や有害生物の捕獲駆除などの取り組みで、少しずつ明るい兆しが見えてきました。今後も国や県と共に、資源の回復に向けた取り組みを支援します。地域ブランド「一色産うなぎ」の発展のため、老朽化した養鰻水道の布設替えに対する支援を継続します。

#### ■ふるさと応援寄附金制度

昨年1年間で約2億円の寄附をいただきました。今後も返礼品を充実させ、市の魅力を全国へPRします。

#### ■企業誘致

企業立地の手続きに関するワンストップサービスや職員の企業訪問、工場等建設奨励金など各種優遇制度の充実に取り組んできました。近年の工場立地のニーズに対応するため、法光寺町の掘割地区で新たに内陸工業団地を造成し、早期の分譲開始を目指します。工場立地が可能な対象業種の範囲を31年1月から拡大するなど、新たな産業構造の形成に向け、これまで以上に積極的な企業誘致を展開します。

市内のものづくり企業の強みなどを掲載した冊子『頑張るものづくり企業in西尾』の改訂や、市内の企業と大規模展示会への共同出展など、「ものづくりのまち西尾」の知名度向上に努めます。



#### ■雇用促進

深刻化する働き手不足を解消するため、新たに雇用促進奨励金の制度を創設して市民の雇用機会を拡大し、市内企業の雇用を創出します。女性や障害者の雇用には、奨励金の交付額を上乗せするなどします。

### 利便性と快適性を 高める基盤づくり

#### ■幹線道路の整備

国道23号名豊道路の4車線化と未整備区間の整備を国に強く要望します。衣浦岡崎線の4車線化の推進や、西尾市街地と西幡豆町を結ぶ西尾幡豆線の鵜ヶ池町地内から吉良町地内までの整備を県に強く要望します。本市の南北の幹線道路である安城一色線の整備も併せて要望します。

市の事業では、県立特別支援学校の建設に併せて整備している須藤15号線をはじめ、田貫徳永線、斉藤市子6号線、平坂93号線、新在家上矢田1号線、平口1号線を引き続き整備します。熊味今川1号線の電線類地中化と道路改良工事は、31年度末に完了。その他、一色町の池田野田1号線、吉良町の吉田224号線、保定183号線などの整備を進めます。交通安全対策として、江原室町線に歩道を設置します。

### ■上下水道・インフラの整備

上下水道の重要管路の耐震化や老朽管の更新、漏水調査を計画的に進め、市内で唯一の自己水源、志貴野水源送水場の浄水設備を更新します。

地震対策として、公共下水道の既設管路の耐震改修と一色西部ポンプ場の耐震補強などを実施します。西尾市上下水道事業審議会からの答申を受け、下水道事業の持続可能な企業経営を実現するため、整備区域を見直し、使用料を改定します。

### ■公共交通

蒲郡市と歩調を合わせ、2021年度以降の西尾・蒲郡線の運行存続に向けて名古屋鉄道株式会社と協議します。沿線を舞台に制限時間内にチェックポイントを巡り、得点を競う「ロゲイニング」など、民間主導の利用促進策を支援します。

市内バス路線を再編するとともに、幡豆地区公共交通協議会の新しい公共交通への取り組みを支援。運転免許の返納や、高齢社会を見据えた利

便性の高い公共交通ネットワークの構築、自動運転技術を公共交通に導入するための調査・研究を進めます。

## 地域を支える文化と人を育む環境づくり

### ■子育て支援

妊娠・出産期から切れ目なく支援するための「西尾市子ども・子育て支援計画」を策定します。増加が見込まれる保育の受け皿として、幼稚園・保育園の認定こども園化を進めます。同一世帯で同時に2人以上が児童クラブを利用する場合、2人目以降の保育料を半額にします。

特定不妊治療費と男性不妊治療費の助成制度の上限額を引き上げ、不妊に悩む夫婦を経済的に支援します。「西尾すこやか祝い金」制度と保育園・幼稚園の給食費無料化を引き続き実施します。昨年設置した「子育て世代包括支援センター」を中心に、出産・育児をサポートします。

### ■学校教育の充実

県下初の義務教育学校「佐久島しおさい学校」を開校しました。小中一貫教育と、少人数による教育環境を生かし、島を丸ごと学ぶ総合的な学習と、英語教育を柱に、たくましい心と体を育みます。

発達障害などがある児童・生徒への教育的支援を行う特別支援教育補

助者の配置や、日本語教育が必要な児童・生徒などにきめ細やかな指導を行う教育補助者を拡充します。

### ■小・中学校の施設整備

体育館の天井やガラスなどの非構造部材の耐震化、授業で使うパソコンのタブレット化などを進めます。

### ■愛知県立特別支援学校

県と連携し誘致を進めている県立特別支援学校の建設地造成に着手し、2022年4月の開校を目指します。隣接地に建設する予定の新学校給食センターも一体的に造成し、2021年9月の開設を目指します。

### ■歴史公園の整備

地域の歴史を学ぶ場や新たな観光拠点とするため、西尾城二之丸跡を整備します。木造二重の二之丸丑寅櫓と全国でも珍しい屏風折れの土塀約50メートルを2020年度までに復元します。

### ■スポーツ振興

2021年にフルマラソン大会を開催するため、コース選定の調査や大会のPRなどの準備を進めます。ホームタウンパートナー協定を結ぶバレーボールチーム「デンソーエアリービーズ」のPRフラッグを市役所駐車場へ掲示するなど、市と市民が一体となった応援への機運を高めます。

公共施設再配置の考え方を尊重して、スポーツ施設の再配置を検討します。健康増進や各種大会の誘致など、市民のニーズを満たすスポーツ環境を整えます。





## 安心できる暮らしを支える 健康・福祉のまちづくり

### ■市民病院

平成29年3月に策定した「西尾市民病院改革プラン」を着実に実行し、安全で安心な医療サービスの提供と経営の安定化に努めます。乳がん検診事業への参画や、医師紹介会社の活用に取り組みとともに、三次救急医療機関との連携強化や医療機能の見直しなど、抜本的な改革を進めます。

碧南市民病院との経営統合をはじめとしまして今後の在り方は、西尾市民病院中期計画等評価委員会の答申などを踏まえて総合的に判断し、結論を出していきます。

### ■手話言語条例の制定

ろう者とうろ者以外の方が互いに認め合い、共生するために、あらゆる場面で手話ができる社会を目指して、手話言語条例を制定します。

### ■高齢者の生活支援

高齢者の運動機能を向上させ、症状の悪化を抑制するため、要支援者などを対象に「送迎付き運動教室」を実施します。認知症が疑われる方などを、認知症初期集中支援チームが認知症初期の段階から適切に支援し、本人やその家族が住みやすい地域づくりに努めます。

高齢者生活支援コーディネーターを市役所内に配置し、地域包括支援ネットワークの構築を強化します。

### ■障害者福祉

一般の歯科診療所では治療が難しい障害者のための歯科診療所を4月に開設し、障害者の歯科診療を充実させます。

## 安全とつながるおいのある 環境づくり

### ■防災・減災対策

本市の海岸線の多くは巨大地震による津波被害の想定区域内にあり、対策は急務です。用地の選定や交渉に着手し、2022年度までに一色と吉良地区の沿岸部に津波避難タワーを2基ずつ設置します。その後は、国の交付金などを財源に、最終的に10基設置します。

災害時の非常連絡網を強化するため、防災無線や緊急速報メールの内容を正確かつ迅速に確認できる防災アプリを導入し、外国人も利用できるよう、4か国語で表示する機能を持たせます。防災無線のデジタル化や災害用トイレの設置を進めます。

国の補助を受けて順次進めている寺津漁港の耐震化では、延長260メートルの区間の施工を目指します。矢作古川分派堰の隣接地に、矢作川志貴野地区河川防災ステーションを国と連携して整備します。防災用資機材の備蓄機能やヘリポートなどを備え、災害時の水防活動などの拠点

施設にします。

地盤が低い住宅密集地域の海岸堤防の早期耐震化を、国や県に対し強く働きかけます。

### ■防犯・交通安全

ドライブレコーダーの搭載や歩行者保護を呼び掛けるステッカーを市の公用車に掲示し、地域の見守り活動や、歩行者優先の啓発を行います。

### ■公園・緑地の確保

市民の憩いの場や災害時の一時避難所となる公園を吉良町富好新田地内に整備します。

### ■環境対策

多言語対応の『ごみの分け方出し方ガイドブック』を一新し、ごみ出しマナーの向上とごみの減量を進めます。地球温暖化防止対策として、家庭用エネルギー管理システムや蓄電池など、再生可能エネルギーを利用する設備の設置に対する補助や、電気自動車・燃料電池自動車など低公害車の購入の補助を継続します。

西尾、岡崎、幸田の2市1町で協議を進める広域新焼却施設は、今年度中に立地場所を決定し、2030年度の供用開始を目指します。

### ■産業廃棄物最終処分場の問題

一色町生田地区における産業廃棄物処分場跡地の問題は、一色地区産廃跡地問題地域会議の「現段階では、掘り返しなどを行わず、周辺環境の調査を継続・強化すべき」との提案を尊重し、跡地周辺水路の水質と底質土壌の調査を実施。今後も県と連携した環境調査を継続するとともに、





有識者などによる周辺環境調査検証会議で調査結果を確認していきます。新たな産業廃棄物処分場建設問題は、市が設置した影響調査研究会で「新たな産業廃棄物処分場の建設は回避されることが望ましい」と結論付けられました。処分場の建設に一貫して反対し、処分場設置に対する抑止効果を持つ、市独自の条例を制定します。また、住民投票条例も併せて研究を進めます。

## 市民と行政が共に考え、行動するまちづくり

### ■シティプロモーション

パンフレットやウェブサイトなど、これまでの情報発信に加え、フェイスブックを活用して西尾の魅力発信します。

### ■市民サービスの向上

人工知能やロボット工学を活用した事務の自動処理を検討するなど、市民サービスの向上と効率的な行政運営を実現するスマート自治体への転換を目指します。コンビニ交付の住民票の写しや印鑑証明書の値下げによりコンビニ交付の利用を促進し、マイナンバーカードの普及と市役所窓口の混雑緩和を図ります。

### ■多様性に向けた取り組み

同性カップルやLGBTなど性的少数者への差別や偏見の解消などを

目的に、同性パートナーを公的に認証する制度を新たに導入します。

### ■学生議会や女性議会

市政に参画する機会の少ない市民の皆さんから、それぞれの視点での提案や意見をお聴きする場である、女性議会や学生議会、まちづくりや市政への関心を高めるきっかけとなる市民討議会を継続して開催します。

### ■行財政改革の推進

効果的・効率的な事務事業を指す第5次実行計画に基づき「下水道事業計画の抜本的見直し」「補助金制度の見直し」に取り組みます。若手職員による施策提案制度「ワクワク西尾創生コンテスト」を継続し、優秀な提案の事業化を進めます。

### ■西尾市方式PFI事業

PFI事業として進める公共施設再配置第1次プロジェクトは、平成30年3月に公表した見直し方針に基づき、業務要求水準書変更案を株式会社エリアプラン西尾に通知し、協議を進めています。昨年買い取りした「きら市民交流センター（仮称）支所棟」は、生涯学習施設としての用途変更工事の準備を進めます。旧一色支所本庁舎は、意見交換会などでの意見や「一色町役場を考える会」からの報告を参考に今後の方針を決定します。

多くの市民の皆さんが一刻も早い解決を望んでいることを念頭に置き、拙速にならないよう粘り強く見直しを進めます。

## 終わりに

都市間競争がさらに激しさを増す中で、行政組織として時代に乗り遅れることのないよう、事務事業の圧縮と合理化を進め、新陳代謝を高めていきます。

所信の柱でもある「市民が主役のまちづくり」を進めていく中で、広く市民の英知を結集させるとともに、職員や企業、団体の提案を市政に反映させるための仕組みを整え、最新テクノロジーの導入について積極的に研究していきます。

安全安心に暮らすことができ、ワクワクする西尾市の実現に向け、全身全霊を傾けて取り組みます。

